

カノコソウ



(東京理科大学 薬用植物園 2022/5/17 撮影)

学名：*Valeriana fauriei*. Briq.

科名：オミナエシ科

属名：カノコソウ属

生薬名：吉草根

薬用部位：根及び根茎

形態：少し湿った山地に自生する多年草。草丈は 50～60cm で茎は直立し、葉は対生で羽状に分裂している。花は、5～6 月ごろに茎頂に散房状の淡紅色の小花が多数密着してつく。

主要成分：精油（ボルニルアセテート、ボルニルイソバレレート、 α, β -ピネン、カノコノール、リモネン）

イリドイド配糖体（カノコシド A、B、C、D）

薬効：鎮静作用

主な特徴：カノコソウは秋に地上部が枯れて黄色くなりその時に掘り取って、根茎とひげ根をより分けて、よく水洗いしてから天日で乾燥させることで生薬である吉草根にする。吉草根は精油成分が含まれているため、特有のくせのある芳香がし、味はわずかに苦い。あ神経過敏症、心悸亢進に用いられ、ストレスなど神経系の興奮を抑制して神経伝達物質の働きを促すことで、神経の興奮を抑える働きをする。また、漢方製剤には配剤されておらず、医薬品の原料として扱われる。

参考文献

- ・生薬単 改訂第2版 伊藤美千穂・北山隆監督、原島広至著 丸善雄松堂株式会社
- ・薬用植物学 改訂第7番 水野瑞夫監修 南江堂